

第27回FDフォーラム  
報告集

第3分科会

美術・隔たり・場

報告者

山城 大督 氏	京都芸術大学 芸術学部 専任講師
村山 悟郎 氏	東京芸術大学 美術学部 非常勤講師
(コーディネーター) 宮永 亮 氏	京都精華大学 芸術学部 講師

P1～ コーディネーターによる総括 宮永 亮 氏

P5～ 事例紹介1. 「2020年以降の身体とメディア、そして表現」  
山城 大督 氏

P39～ 事例紹介2. 「芸術学部造形学科 1年次共通教育 体幹教育  
—遠隔実践の例と露わになった問い」  
宮永 亮 氏

P52～ 事例紹介3. 「インターネット以後のポストメディア論」  
村山 悟郎 氏

## 美術・隔たり・場

コーディネーター

宮永 亮 氏(京都精華大学 芸術学部 講師)

### 本分科会のねらい

いわゆる「美大」での美術教育においても、コロナ禍がもたらしたインパクトは甚大なものであった。そもそも美術表現において、つまり表現とメディウムの関係性の中で、物質性の持つ比重は非常に大きなものである。また、作品制作プロセスにおける身体性も、様々な形で作品の内容やクオリティーを左右する。そのような美術領域において、オンライン授業という授業形態は大きな混乱と変化を大学にもたらした。教育現場において当然のように存在した教員と学生の、物質や空間を共有したやり取りが不可能になった状況下で、様々な試みや奮闘が為されたであろう。今回の分科会においては、その成功や失敗を奇貨とし、今後の美術教育の発展可能性を論じる場とすることがねらいであった。アートプロデュース、油画、映像や1年次共通教育と言う、美術教育現場における様々な分野を担当する、山城大督氏、村山悟郎氏、宮永亮の3名の講師を報告者とし、それぞれの事例紹介の後に逐次3名でのディスカッションを挟む、と言う形式を採用した。

### 山城氏の報告の概要

京都芸術大学のアートプロデュース学科に在籍し、映像分野を専門としてこられた山城大督氏による、「2020年以降の身体とメディア、そして表現」と題された報告が行われた。学科の中でも重要な要素としてのキュレーション活動自体が困難な中で、如何に企画やプロジェクトを実現してゆくかについて、様々なオルタナティブな事例紹介が行われた。

様々なゲストをZoomに招いて音声を収録し、学生がそれを編集してオンラインラジオ番組としてSNS等で発信をする『あじのひらきラジオ』、アーティストの奥村雄樹氏をゲストとして招いた「コンセプチュアルの、パーソナルの消息の探索へ」と言う、遠隔トークと対面視聴を組み合わせたハイブリッドな事例が紹介された。

ロームシアター京都でのオンライン企画、『プレイ！シアター at Home 2020』への参加の様相も紹介され、企画作業時のGoogleドキュメントのような共同編集プラットフォームとZoomの併用時の、対面作業時以上の情報共有のスムーズさについても紹介があった。

ウルトラ・ファクトリー内で山城氏が企画運営される『The Projected Image Laboratory』での企画『YOUR VIDEO』が、映像領域を専門とされる視点から紹介された。リモート作業でホームビデオを制作するというワークショップであり、オンライン環境における画面共有機能を利用した映像制作教育・指導の効率の良さが語られた。

最後に、山城氏がNadegata Instant Partyの一員として、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館にて開催の展覧会「丸亀での現在」に出品した作品「ホームステイホーム」が、教育現場での経験のフィードバック事例として紹介された。

### 山城氏の報告に関するディスカッション

まず宮永より、映像メディアとオンラインの組み合わせによる場の「演出」に際しての苦労について質問があった。山城氏は、オンライン教育そのものに新鮮さがあつた時代と、時を経てそれが失われつつある状況への変化の中で、常に新鮮な驚きをその時々で与えるものを用意しない限りはモチベーションやイマジネーションが持続しない問題点を指摘した。

村山氏により、映像というメディアがどうしても「見る専」を作り出しやすい性質を持つという理解の上で、例えばGoogleドキュメントのようにリアルタイムで、オンラインで映像の共同編集ができ

## 美術・隔たり・場

コーディネーター

宮永 亮 氏(京都精華大学 芸術学部 講師)

る環境の到来が望まれる、という提言があった。その場合には、必ずしも作られたコンテンツの面白さではなく、制作プロセス自体に教育的価値を見いだせるようになるという視点も提示された。

山城氏は、何らかの制作活動や展示活動において、当たられた枠組みを作り手がどこまで操作できるのか、するのかという意味の重要性について言及した。

### 宮永報告の概要

宮永は、2017年より関わってきた京都精華大学における1年次共通教育「体幹教育」における、コロナ以前と以後の比較の観点から報告を行った。

まず、「体幹ドローイング」という対面授業時に例年実施している、身体大スケールの「筆」を自ら制作し、巨大な画面に身体の動きの軌跡を書き込んでゆくという課題事例が紹介された。

その後、体幹教育における第一課題のコロナ以前以後の比較を行った。「工房内を描く」課題では、対面授業における、ある程度の共通の授業フォーマットがある状態であったが、身体性を剥奪され支持体すらも自由になったオンライン課題「身の回りを描く」への変化によって、どのような表現が出てきたのかを紹介した。「立体物、日用品に描きこむ」という興味深いアプローチやアイデアが、オンラインという制約の中で、むしろ例年の対面時より、早い時期から打ち返されてきたことから、身体性の欠落や、物質的不足と言ったある意味ではネガティブな制限が、個別の興味深い表現を生み出す契機となるのでは、という視点が提示された。

最後に、オンライン授業の中で見出された様々な可能性や方法論が、今後対面の美術教育の中にも体系的に組み込まれ、美術教育を更新してゆく可能性の有無についての問いかけが行われた。

### 宮永の報告に関するディスカッション

山城氏は、オンライン授業が終わって、対面授業になった直後の学生のモチベーションの向上、伸び率の実感について述べた。同時にそのモチベーションが進級後までは長く続かない点について、対面時に可能であった、学生と教員感の相互の信頼関係構築の不足に原因の一部を求めた。

村山氏は、宮永の「問いかけ」に対し、対面授業においても今後オンラインで蓄積された知見や方法論は残ると言う見解を示した。但し、一定程度のプロフェッショナルの関わる現場では、様々なオンライン技術の導入による合理的な業務の仕方が可能になっている現状があるのに対し、教育においては学生のモチベーションや技術、情報収集能力の向上と言う問題をオンラインで如何に担保してゆくかの難しさについて言及があった。

山城氏は、対面再開後もあえてオンラインを絡めたミーティング等を授業内実施することによって、オンラインが社会の業務において一般化しつつある環境変化に教育現場も合わせてゆく必要性を論じた。

村山氏は、対面の実習室内において、学生が他の学生や教員の作業を見ている時の学習効果についても述べ、そのような効果をオンラインや映像と言うメディアを使って実現させるためには、映像コンテンツのクオリティーそのものが重要になってくると言う見解を示した。

### 村山氏の報告の概要

## 美術・隔たり・場

コーディネーター

宮永 亮 氏(京都精華大学 芸術学部 講師)

「インターネット以後のポストメディア論」と題して、主に東京藝術大学芸術学科に所属され、絵画を専門とされる村山氏による、一年生向けの授業事例の報告が行われた。

まず「ポタニカルアート/植物画」の、遠隔地にある植物を植物画家が描き、本国に情報を伝達するという機能に着目し、学生に身近な植物を描かせてなんの植物かを当てさせる課題(但し、あまりにわかりやすい植物を描いた場合には加点が少なくなる)や、「メールアート/郵便芸術」を参考にした、学生同士で相互にメールアートを送り合う課題について紹介された。

東京藝術大学での事例に加えて、村山氏が教鞭を取られている武蔵野美術大学の油画4年生での事例も併せて紹介された。従前はグループを組み、それぞれにグループ展を行うという実践的な課題授業であったが、オンライン授業という形態の中で、単一メディアの中にだけ存在するような作品/表現ではなく、複数のメディアの間の情報の流れの中に存在する「表現/作品らしきもの」の形を模索する授業内容に切り替えられ、その内容が紹介された。Yahoo 知恵袋に質問をし、それへの回答をもとに映像を作るなどの試みを通じて、現在の発達した情報環境の元、新しい情報の流れを作り出すという行為そのものを作品化するような学生のアプローチ事例が示された。

最後に、「アトリエと卒業制作」というテーマで問題提起が行われた。大学内の共有のアトリエにおいて、学生が制作する場を共にすることで生まれる制作スキル向上などの相乗効果が、コロナによるアトリエ一時閉鎖により消失してしまった中で、そういった効果をオンライン教育上でどのように担保するのか、また、卒業制作の内覧会展示が感染状況により中止となったことで、学生と大学との信頼関係が崩れるなど、学生の制作に関わるモチベーションの維持の困難さについても提示があった。

### 村山氏の報告、および全体に関するディスカッション

村山氏の報告終了後、やや予定を変更して個別ディスカッションおよび総合ディスカッションをまとめて実施した。

まず、村山氏の問題提起にあった、物理的な空間を複数の学生共有する形でのアトリエ制作の利点を、オンラインでの代替が可能かについて、三者の意見を交換した。村山氏よりアーティストの筆致をある程度の解像度で記録した映像や、あるいは筆捌きの運動を3D的に記録し、それを追体験できる装置など、作品制作における新しい記録技術の利用可能性について言及があった。

山城氏より、現状美大芸大の教育/制作環境が対面ベースに戻りつつある状況下では、コロナ禍の約二年間の中のオンライン環境で、出来なかったこと、出来たこと、その効果や、平時においても対面よりもオンラインが優れている個別の例などを検証することの重要性が指摘された。またそれを検証するための身体感覚を教員側が養う期間として、この二年間が有意義であった旨の発言があった。

村山氏は、絵画のオンライン講評の経験上、教員も学生も、Zoomなどの環境下ではそもそもやり取りできる情報量が限られていることを自覚しながら、その範囲に収まる形での講評に終始してしまう、つまり当初からハードルを下げたコミュニケーションになってしまうことも指摘した。一方で、絵画教育において自明の存在だったアトリエが一度封鎖されてしまったことが、それが持っていた機能を客観視することに繋がり、その機能をさらに高める媒介者の存在なども構想可能になった旨、言及があった。

## 美術・隔たり・場

コーディネーター  
宮永 亮 氏(京都精華大学 芸術学部 講師)

---

観客における質疑では、オンライン教育での基礎技術の習得の可否についての質問があり、専門分野による可能性の差が報告者たちの回答により示されたが、村山氏により絵画の描き方のチュートリアル映像化などは早期に実現すべきという建設的提言もあった。また、オンラインにおいて倫理観や、モノではなくコトの美しさを伝えることの難しさについても質疑応答が行われた。また、山城氏の子ども向けプロジェクトでの、子どもからの反響や、学生の姿勢についても質疑が行われた。

### まとめ

大きな社会変化に伴い翻弄された美術教育であったが、報告や質疑を通じて、この経験を奇貨として美術教育そのものを次のステップへ進める意義は登壇者や質問者の方々の中で共有されていると感じ、コーディネーター兼報告者としても、これからの教育活動の為の知見や意欲を多く持ち帰ることのできる場となった。報告者、参加者の方々に心からの感謝の意を述べたい。

大学コンソーシアム京都

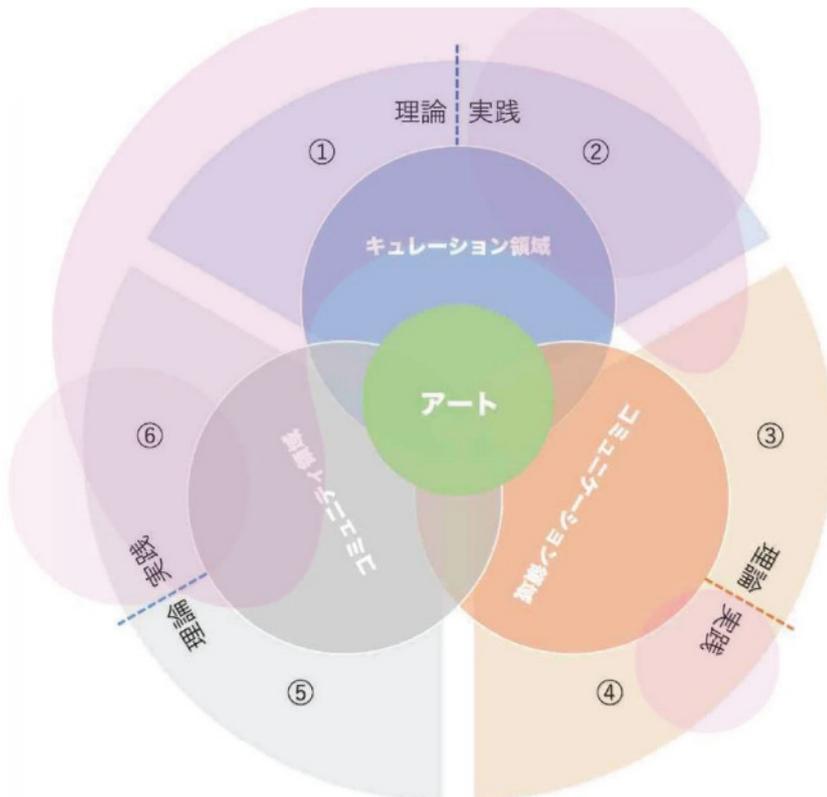
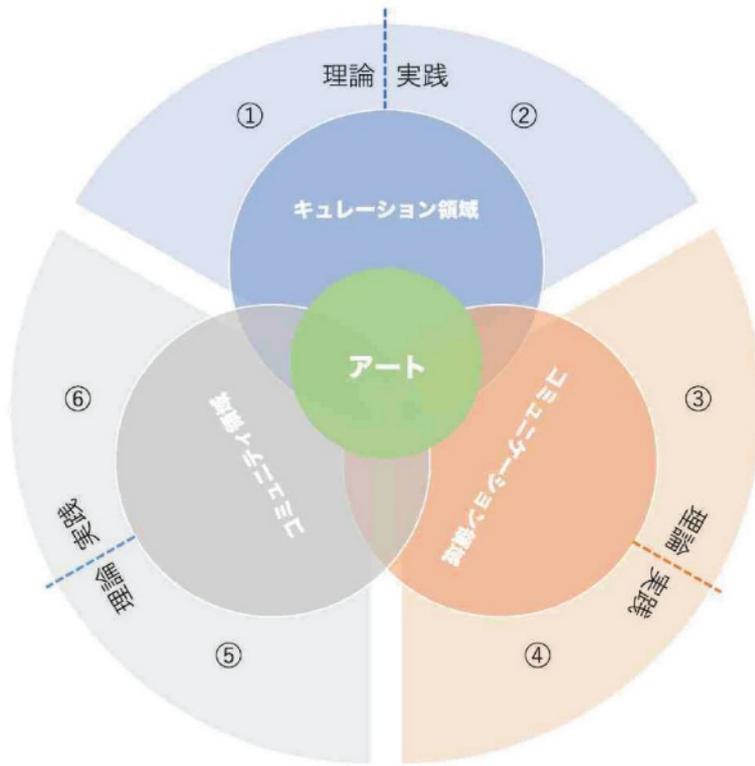
第27回FDフォーラム 『大学教育の「場」を問い直す』

第3分科会 「美術・隔たり・場」

事例紹介1 「2020年以降の身体とメディア、そして表現」

京都芸術大学 芸術学部 講師 山城大督





# コロナ禍におけるアートプロデュース学科の実践① | 『あじのひらきラジオ』



## 自分たちで自分たちの場所をつくる楽しさ

30分のラジオ番組を週1回、月曜か火曜に配信する。2020年6月2日に「あじのひらきラジオ Vol.1」を公開してから、週1回の配信ペースをキープして、9月18日現在で第14回目を数えました。番組に登場するゲストも多種多様で、文芸表現学科など学科の異なる学生や、他大学の学生、芸術関係の仕事に携わるプロも登場し、ますますバラエティ豊かな内容になってきています。

週1回配信というスケジュールを、授業や課題の合間に続けていく楽しさや、大変さについて聞いてみると、細川さんは、「良かったのは、ゼミのメンバーの距離感が、より親密に変化したこと。春休み以降、みんなに一度も会えてなく、実家に帰っている人もいて、物理的な距離は遠くなっているけれど、ラジオをみんなでやることで、お互いの距離感は前よりも近くなっている気がします。まるでルームシェアしているようだと思うこともあります」といいます。

収録・編集担当の大倉さんは、「収録ペースがつかめるまでは、なかなか大変でした。最初の頃は毎週公開するために、金曜までに収録して、土・日曜に編集して、週明けに公開というハイペース。先に撮りだめができるようになると余裕が出て、焦らず進めていけるようになりました。いま気になっているのは、喋りたいことが多すぎて1回あたりの番組が長くなってしまったこと(笑)。長いと編集作業も大変になるので、30分くらいの尺に縮めて構成していけたらと思っています」。



ARTZONE LECTURE  
SERIES Vol. 2 主催 京都府立大学アートプロデュース学科

# コンセプチュアル

奥村雄樹 トークイベント  
「コンセプチュアルの、パーソナルの消息の捜索へ」  
2020.10.29 | 木 | 18:30 | 入場無料  
会場 京都芸術大学 NA307 申込不要

# パーソナルの

▽ 季節の冒険

Image credit: Tom O'Hara, art directed by Will Merriman/Art Storm, Art Storm, Tuller/Contour, Tom O'Hara, Tom O'Hara, Tom O'Hara

コロナ禍におけるアートプロデュース学科の実践 ②

主催 京都芸術大学アートプロデュース学科

ARTZONE LECTURE  
SERIES Vol. 2

コンセプチュアル

パーソナルの

奥村雄樹 トークイベント  
「コンセプチュアルの、パーソナルの消息の探索へ」  
2020.10.29 | 木 | 18:30 | 入場無料  
会場 京都芸術大学 NA307 申込不要

▽ 羨望の冒険

奥村雄樹さんはベテラン・プロデュースがよりオンラインでの夢田となります。




ARTZONE LECTURE SERIES Vol. 2 奥村雄樹レクチャー

	A	B	C
1	ARTZONE LECTURE SERIES Vol.2 奥村雄樹レクチャー		
2	タイトル	In Search of the Conceptual, of the Personal	「コンセプチュアルの、パーソナルの」
3	日時	2020/10/29 18:30:00 (日本時間)	90-120
4	会場	大学の複数の教室	奥村さんはZoomにて参加
5	参加条件	先着○○名	
6	参加方法	申込なし	
7			
8	内容	60-70分	20分
9		奥村さんによるレクチャー	チャットで質問を募集 (ツイッターでハッシュタグ)
10	広報		
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			

まだ、第一回自話しあい、提案して見たデザインなので、  
ここから、これからの進行を聞き、変わると思います！



正方形のフライヤー  
(大きさはまだ決まっていません)

奥村さん  
自己  
個人  
自伝などをテーマに扱っている  
なので、奥村さんが「自己」「自分」だと思う写真を使って頂きたい

今回、「コンセプチュアル」という言葉が重要になってくると思い、「コンセプチュアルアート」とは、キャンパスに自分を表現してきた、今までのアート作品とは違い、「自分の考え」、「コンセプト」そのものが大事で、それ自体が作品となるということだと、今私たちは理解していて、その「自分の考え」を今回お話ししていただくというイメージで、奥村さんの顔の中をみるというようなデザインを考えています。

- ・フライヤーのデザインに使用させて頂いてもよい作品画像はあるのか。
- ・また、その場合、その画像を加工させて頂くことは可能なのか。



ARTZONE LECTURE SERIES Vol.2

- ・本企画は京都芸術大学の学生及び学内関係者のみ対象になります。
- ・感染症等による社会情勢の急激な変化による企画の延期・中止の可能性がございます。ご来場の際にはWebサイトにてご確認の上お越しください。
- ・ご来場の際はマスクの着用をお願い致します。また、手指消毒のご協力もお願い申し上げます。

主催 京都芸術大学アートプロデュース学科

ARTZONE LECTURE  
SERIES Vol. 2

# コンセプチュアル

パーソナルの

奥村雄樹 トークイベント  
「コンセプチュアルの、パーソナルの消息の探索へ」  
2020.10.29 | 木 | 18:30 | 入場無料  
会場 京都芸術大学 NA307 申込不要

▽ 羨望の冒険

長村浩樹さんとはベルギー・ブリュッセルがよりオンラインでの夢田となります。



## コロナ禍におけるアートプロデュース学科の実践 ②

ARTZONE LECTURE SERIES VOL. 3

【オンライン特別】  
パーソナルの

# 伊藤亜紗

トークイベント

オンライン | オンライン  
身体とコミュニケーションを再考する

2/18 2021 Thu  
14:00-16:00

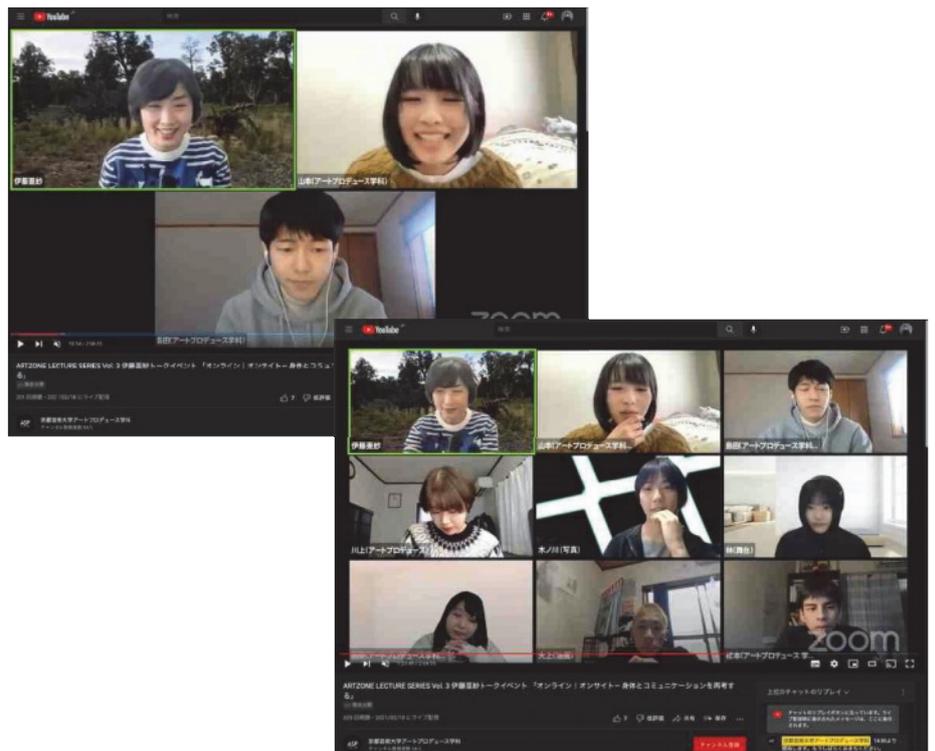
学内関係者対象

【視聴無料】※要申し込み

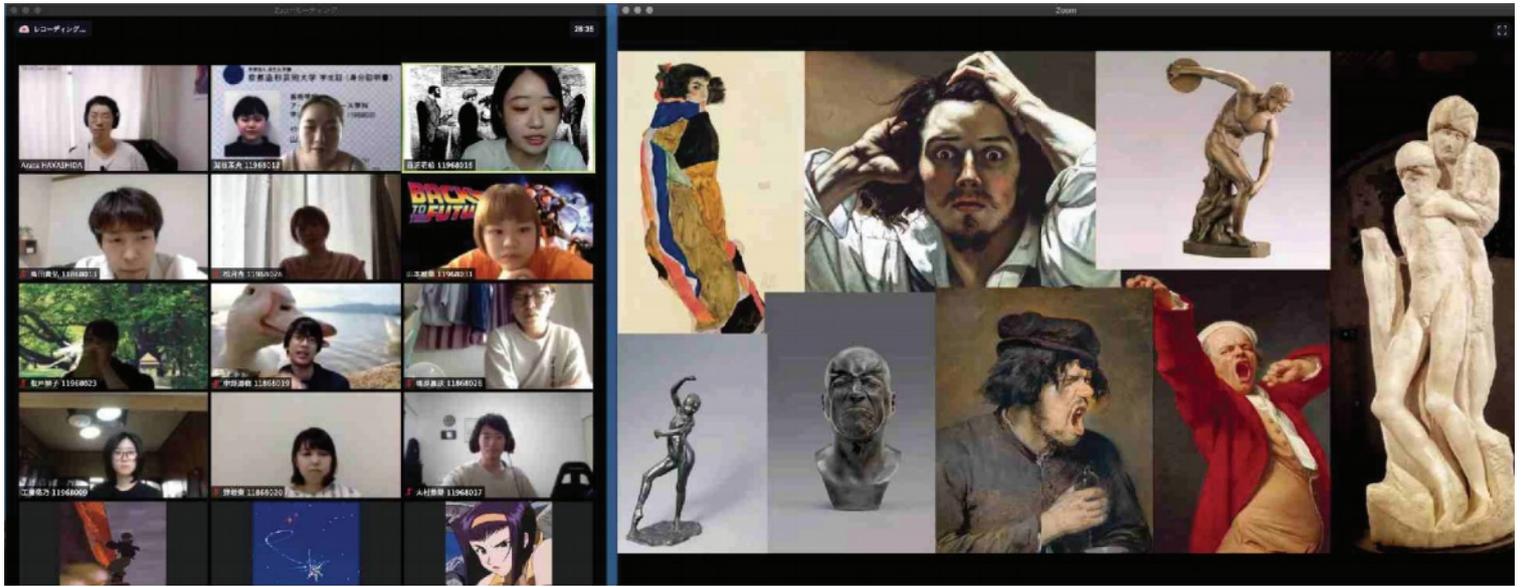
会場 Youtube配信 (予定公開予定)

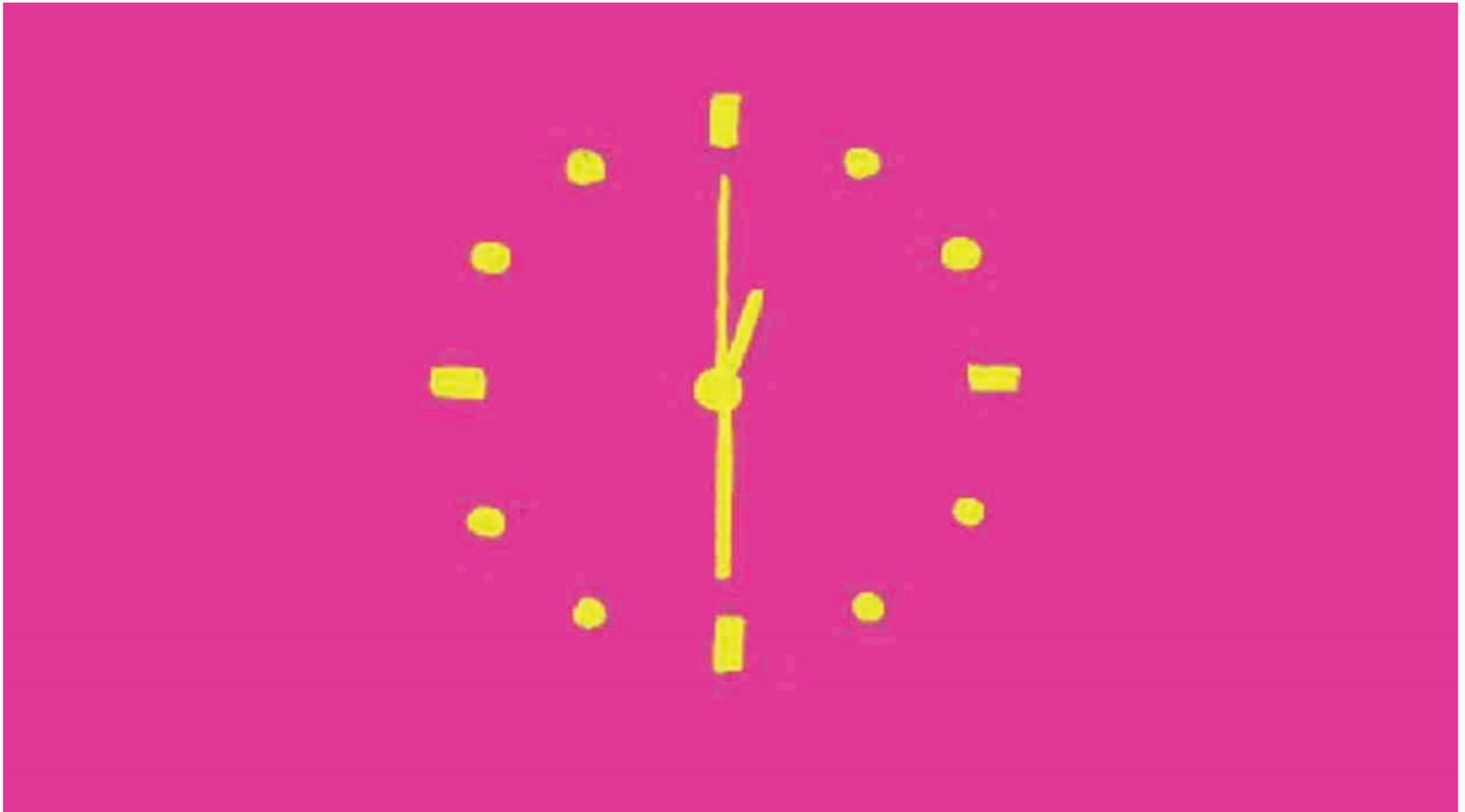
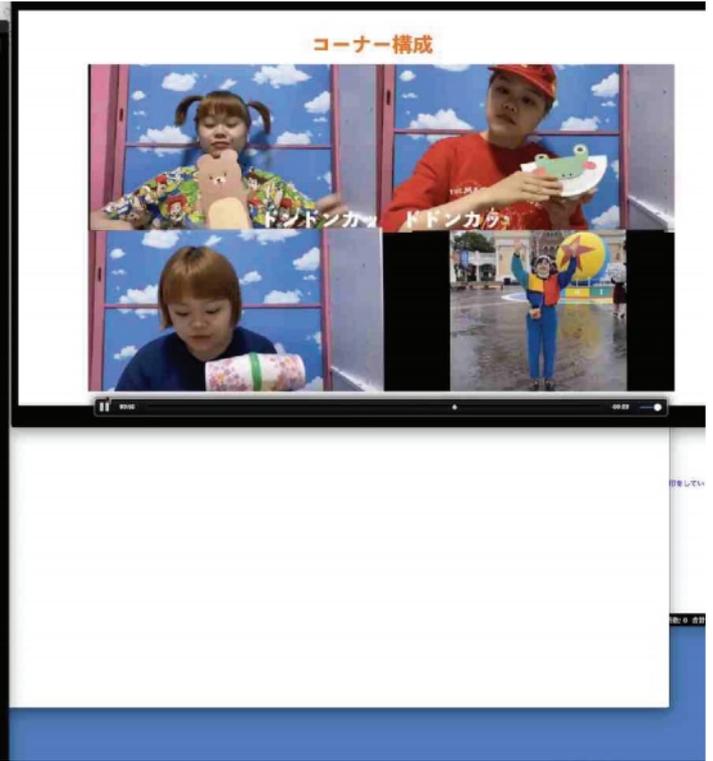
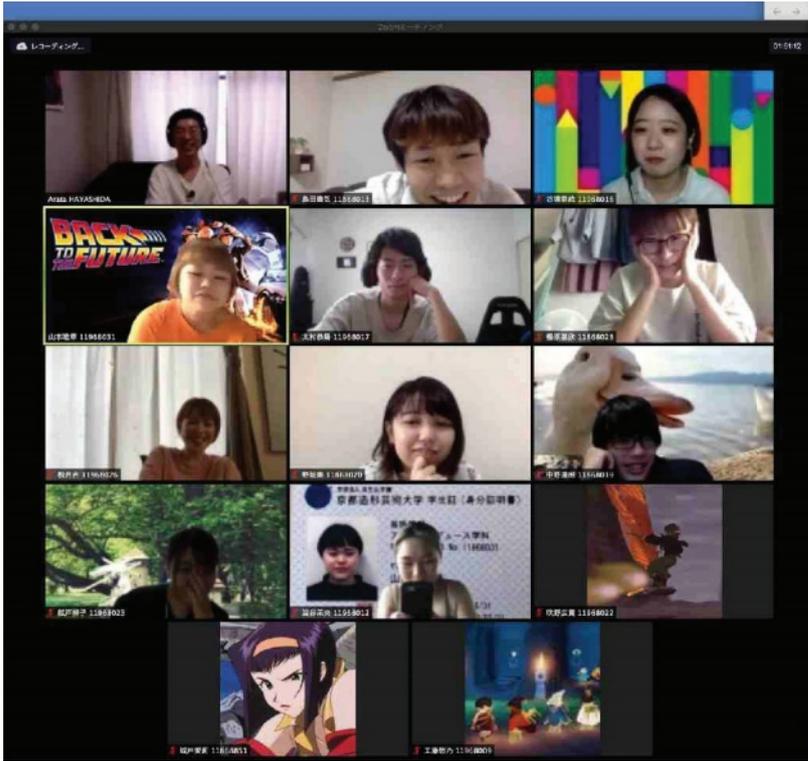
お申し込み先 京都芸術大学アートプロデュース学科  
〒605-8585 京都府京都市中京区西ノ京2-1-1  
TEL: 075-757-1111 (受付時間: 10:00-17:00)

※オンラインイベントは京都芸術大学の関係者を対象としたイベントです。













よくみてね!



The  
rojected  
Image  
aboratory



2021年8月7日(土) 14:00-17:00 9月5日(日) 10:00-16:00 □講師: 山城大督 (美術家・映像作家)  
 □参加費: 無料 □定員: 9組 (要事前申込) □対象: ファミリーまたはファミリーと言える2名以上のグループ ※2日同時参加可 □参加方法: Zoomによるオンライン参加

あなたの  
 家族の2021年を  
 記録する  
 ワークショップ

【国立国際美術館 オンライン映像ワークショップ】 Your Video



国立国際美術館 THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

今回のワークショップでは、ちょっとした条件付き撮影方法で、みなさんが想像するホームビデオとは異なるホームビデオをファミリーごとに作成します。1日目(8/7)は、レクチャー、トーク、試し撮り、2日目(9/5)は、初回終了後にファミリーごとに撮影した映像を集めたスタッフとともに鑑賞し、最後には発表です。どのような「YOUR VIDEO」が出来上がるかは乞うご期待! あなたたちだけの2021年の夏を記録しましょう。



□講師

山城大督 DAISUKE YAMASHIRO



1983年生まれ。京都府京。美術家・映像作家。映像の時間概念を空間プロジェクトへ応用し、その場でしか体験できない(瞬間)を作品として記録。2004年よりアーティスト・コレクティブ「Nadogata Instant Party」を結成し、市況情報センター(YCAM)にてアーティストとして、オンラインワークショップの開発・実施や、教育普及プログラムを多数プロジェクト。2020年より京都府立大学専任講師、第23回文化メディア芸術祭審査委員兼賞品委員長。  
<http://the.yamashirostudio.jp/>

□講師からのメッセージ

一本のビデオが、いまも手元にある。小学3年生のころ、近所の小さな電気屋さんが企画するビデオ撮影会に参加した。5分ほどの映像には、少し高めめのアングルからカメラを向けられて緊張しながらも質問に答える私がいち、映像は未来への手紙と言え、このワークショップでは、私が考案するコンテをつかってオリジナルのビデオをつくる。このビデオは、いまの「あなた」を記録して、いつかの「あなた」にとどけるビデオレターになるでしょう。—— 山城大督

▶日時 2021年8月7日(土) 14:00-17:00  
 9月5日(日) 10:00-16:00  
 2日目はお昼休憩を挟みます。2日での1つのワークショップです。

▶参加方法: Zoomによるオンライン参加

▶参加費: 無料

▶対象: ファミリーまたはファミリーと言える2名以上のグループ  
 ※2日同時参加可 ※Zoomアプリのインストールとパソコン・スマートフォンが可能な通信環境。映像を撮影できるスマートフォンをご準備ください

▶定員: 9組 (応募者多数の場合は抽選)

※事前申し込み  
 (7月28日(金)15時必着。定員に達しない場合は先行報名を優先します)

▶協力: 京都芸術大学ウルトラファクトリー

申し込み方法

下記のメールアドレスまでメールを送ってください。件名には、「オンライン映像ワークショップ YOUR VIDEO」とご記入の上、本文に以下の7項目をご記入ください。

- ①参加者全員のお名前(ふりがな)
- ②必ずお申し込みの住所を記載してください(お子様の参加者の学年あるいは年齢)
- ③住所
- ④連絡用メールアドレス
- ⑤電話番号(15-のた、携帯・連絡先は当日に連絡可能な番号)
- ⑥参加動機
- ⑦今回の撮影の入手方法  
 (スマートフォン、インターネットの環境があればよい、SNSも可)

□申し込みアドレス  
[education@nmao.go.jp](mailto:education@nmao.go.jp)

□しめきり

2021年7月28日(金) 13時必着

※定員に達しない場合は、引き続き募集します。

□お申し込みに関してのご注意・お知らせ

- @nmao.go.jpからのメールを受信できるように設定してください。当館からの参加者のメールアドレスが登録されているは連絡メールフォルダ等に振り分けられないようにご注意ください。
- 撮影日時・申し込み日とも、1件として取り扱います。
- 応募者多数の場合は抽選です。参加申し込みされた全員の方に参加の可否をお知らせします。
- 対応しないから諦めていくプログラムのため、原則、カメラオン設定をお願いいたします。
- プログラム中は画面録画を行います。記録した映像、静止画は、生配信と講師の広報活動に使用する可能性があります。使用に同意できない方は、別途ご相談ください。また、参加費による録画・撮影・編集はご遠慮ください。

【国立国際美術館 オンライン映像ワークショップ】  
 YOUR VIDEO

国立国際美術館 THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

〒530-0005 大阪市東中之島4-2-25  
 電話06-6511-4883(内) 平日10:00-17:00 <http://www.nmao.go.jp/>

9月23日 本日は開館日 10:00 - 17:00 (入館18:30まで)

国立国際美術館 THE NATIONAL MUSEUM OF ART OSAKA

アクセス・開館時間・観覧料 検索 LANGUAGE

展覧会 イベント オンラインコンテンツ 学び・体験 所蔵作品 リサーチ&アーカイブ 美術館案内 美術館について 会員制度・寄附

**EXHIBITION**  
展覧会

ポスター/ポスター  
2021年10月10日 - 2022年10月10日  
2021年10月10日

一九六八年の五月革命以降、自らの活動を、一般に認められた、伝達可能なパライムに一致(適応)させることよりも、自らの活動を開いた。試練にかけられる

2021年8月7日◎14:00▷17:00 9月5日◎10:00▷16:00 □講師:山城大督 (美術家・映像作家)

□参加費:無料 □定員:9組(要事前申込) □対象:ファミリーまたはファミリーと言える2名以上のグループ◎20歳未満◎2名 □参加方法:Zoomによるオンライン参加

あなたの家族の2021年を記録するワークショップ

ONLINE VIDEO WORKSHOP

YOUR VIDEO

【国立国際美術館 オンライン映像ワークショップ】 Your Video

国立国際美術館 THE NATIONAL MUSEUM OF ART OSAKA

# YOUR VIDEO

## 撮影タイムラインシート

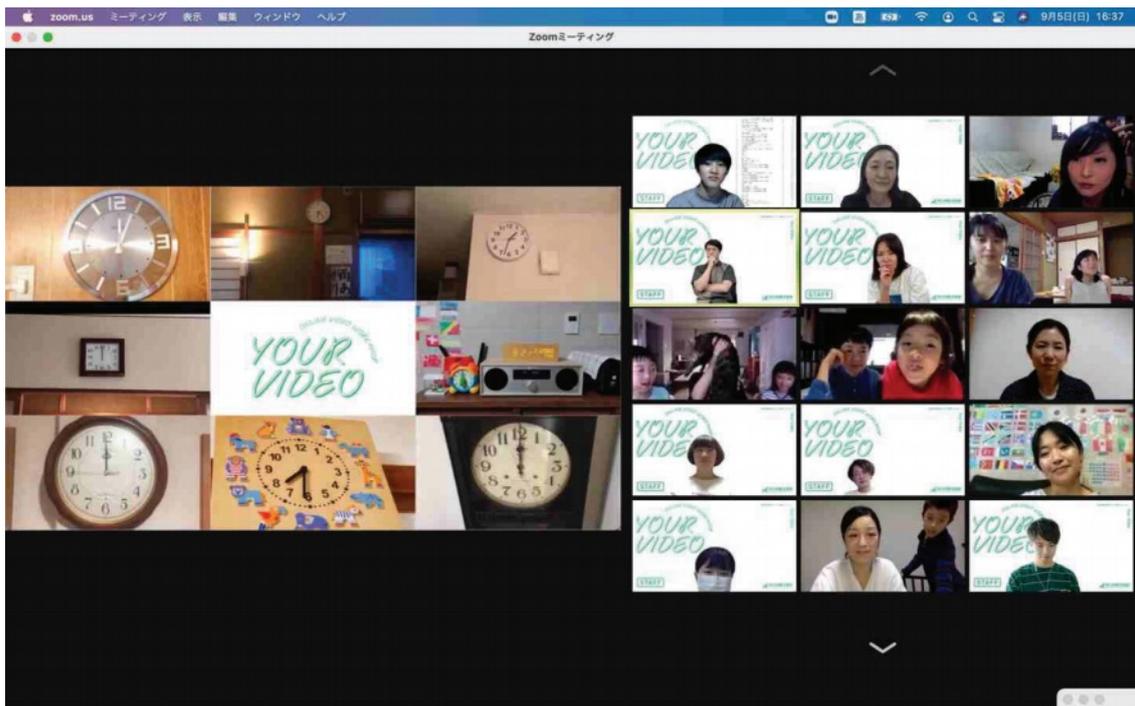
シーン	内容	時間(秒)	コメント	撮影チェック
1	ワークショップ「YOUR VIDEO」に参加している様子	12	自由に撮影	<input type="checkbox"/>
2	誰かの顔のアップからスタートし、自宅の玄関から出る	20		<input type="checkbox"/>
3	自宅の玄関を出て少し散歩①	10	歩きながらの撮影気をつけて	<input type="checkbox"/>
4	自宅の玄関を出て少し散歩②	15	歩きながらの撮影気をつけて	<input type="checkbox"/>
5	玄関から家に入っていく様子	5	家の中から撮っても、外から撮ってもOK	<input type="checkbox"/>
6	ワークショップ「YOUR VIDEO」に参加している様子	8	自由に撮影	<input type="checkbox"/>
7	カレンダーの8月7日の日付を撮影	4		<input type="checkbox"/>
8	家にある時計	8	カメラをできるだけ動かさずに撮影	<input type="checkbox"/>
9	誰かが「YOUR VIDEO」と言ってる声と顔	4	複数人数でもOK	<input type="checkbox"/>
10	2020年8月8日20時30分ごろのテレビ画面	20		<input type="checkbox"/>
11	テレビを見ている誰か	20		<input type="checkbox"/>
	2020年8月8日20時40分ごろのテレビ画面	10		<input type="checkbox"/>
12	グラスに何か飲み物をそそぐ	10	いつ撮影してもOK	<input type="checkbox"/>
13	それを誰かが飲んで「うーん！うまい！」って言う	8	いつ撮影してもOK	<input type="checkbox"/>
14	自由撮影①	35	家の中のことであれば、何を撮影してもOK	<input type="checkbox"/>
15	誰かが起きてくるところに「おはよう」と声をかける	12		<input type="checkbox"/>
16	洗面台	3		<input type="checkbox"/>
17	歯ブラシ	3		<input type="checkbox"/>
18	朝ごはん	3		<input type="checkbox"/>
19	カーテン	3		<input type="checkbox"/>
20	鏡にうつる誰か	3		<input type="checkbox"/>
21	誰かが朝ごはんを食べている	5		<input type="checkbox"/>
22	誰かが出かけるところ	5		<input type="checkbox"/>
23	家の中をどこでもいいので、歩きながら撮影①	8		<input type="checkbox"/>
24	家の中をどこでもいいので、歩きながら撮影②	8		<input type="checkbox"/>
25	自由撮影②	20	どこかに出かけたときでもOK、以前撮影した映像でもOK	<input type="checkbox"/>
26	自由撮影③	20	どこかに出かけたときでもOK、以前撮影した映像でもOK	<input type="checkbox"/>
27	誰かが日記を書き、その文章を音読している様子	70	300文字くらいで日記を書く	<input type="checkbox"/>
28	誰かの子どもの時の写真①	4	何歳のころでもOK	<input type="checkbox"/>

29	「誰かの子どもの時の写真①」を見ている様子	12		<input type="checkbox"/>
30	誰かの子どもの時の写真②	4	何歳のころでもOK	<input type="checkbox"/>
31	「誰かの子どもの時の写真②」を見ている様子	12		<input type="checkbox"/>
32	家の窓からの風景	6		<input type="checkbox"/>
33	本棚	6		<input type="checkbox"/>
34	家の中の植物もしくは動物	6	どちらもない場合は近所の植物でもOK	<input type="checkbox"/>
35	全員のお茶碗もしくはお皿を真上から撮影	3		<input type="checkbox"/>
36	全員のお茶碗もしくはお皿を真横から撮影	3		<input type="checkbox"/>
37	キッチン①	3	自由に撮影	<input type="checkbox"/>
38	キッチン②	5	自由に撮影	<input type="checkbox"/>
39	誰かの手①	2	自由に撮影	<input type="checkbox"/>
40	誰かの手②	3	自由に撮影	<input type="checkbox"/>
41	ワークショップの中で決める	50		<input type="checkbox"/>
42	誰かが変るところに「おやすみ」と声をかける	20		<input type="checkbox"/>
43	家にある時計	20	カメラをできるだけ動かさずに撮影	<input type="checkbox"/>
	合計(秒)	511		
	合計(分)	8.516666667		※すべてカメラは横位置で撮影する









2021年8月7日◎14:00▷17:00 9月5日◎10:00▷16:00 □講師: 山城大督 (美術家・映像作家)

□参加費:無料 □定員:9組(要事前申込) □対象:ファミリーまたはファミリーと言える2名以上のグループ◎20歳未満の方 □参加方法:Zoomによるオンライン参加

あなたの家族の2021年を記録するワークショップ

【国立国際美術館 オンライン映像ワークショップ】 Your Video

ONLINE VIDEO WORKSHOP

YOUR VIDEO

国立国際美術館 THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA



丸亀市篠原第一彫刻美術館 企画展「丸亀での現在」  
 Nadegata Instant Party [中崎穂+山城大登+野田智子]  
 新作プロジェクト「ホームステイホーム」

**コロナ禍の日本で、  
ペンフレンドつきりませんか？**

Nadegata Instant Party がやってくる！  
**「ホームステイホーム」説明会、  
ついにリアル開催決定！**

**11/7** (日) 11:00-12:00  
 場所 | 丸亀市市民交流活動センター  
 マルタス1階多目的ホール  
 ※参加無料・出入自由  
 ※((お気軽に観てください))

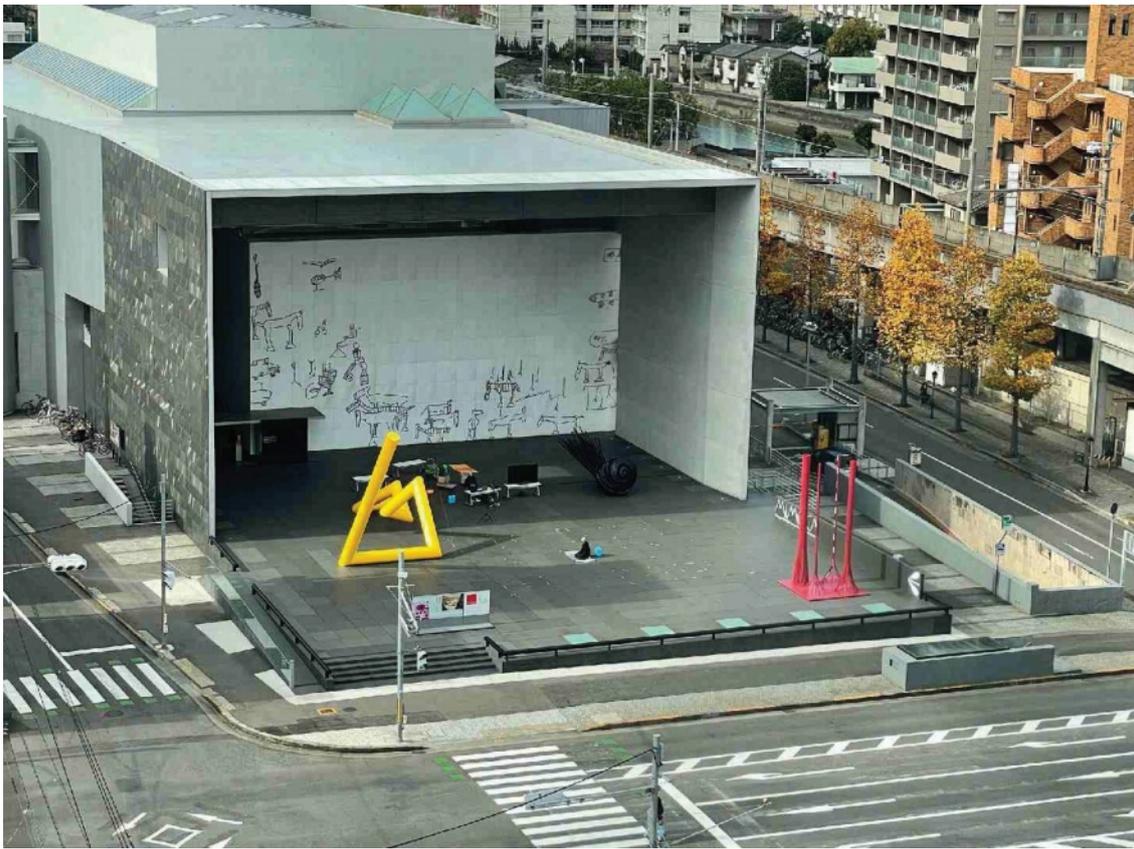
**丸亀のホストファミリー大募集！**  
 47都道府県のオンライン・ホームステイ？

**参加者  
大募集**











aoi miho

須磨子 行成

あー すごい 貼ってある ちゃんと切って



大西 泰弘

大きな産業遺産があるわ



愛知

丸亀



takenaka の iPhone

はー いいですね

京都

丸亀



かなで

コロナになったタイミングで私たち大学入学したんで



takenakaのiPhone



英二 高木

なんか 竹中さんとのお友達になれるような感じやよ



shoji

テレビのむこうやで



茨城 静岡

丸亀

五嶋英門のiPad

task ohigashi



年賀状 書かん きん来ん 来んきん 書かん ていうんですけど  
藤田 一輝

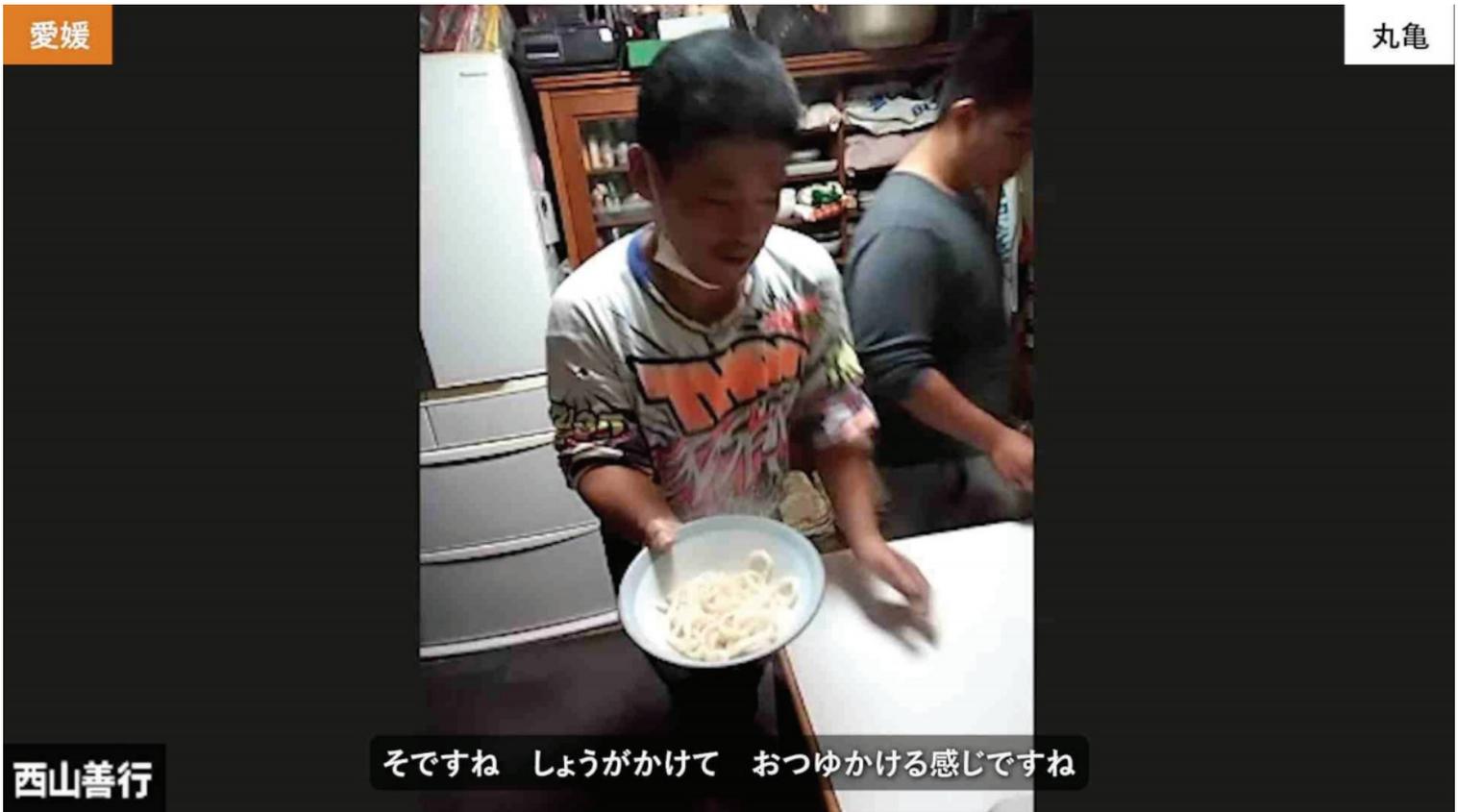


神奈川

丸亀

石原 真弓

かんぱーい





ひろゆき@丸亀

キノシタ パルコ

この街で生きてくって感じられるようになったら復興完了ですかね



まきちゃん

いま5さいいく43(北海道)

死ぬまで 忘れへんわ



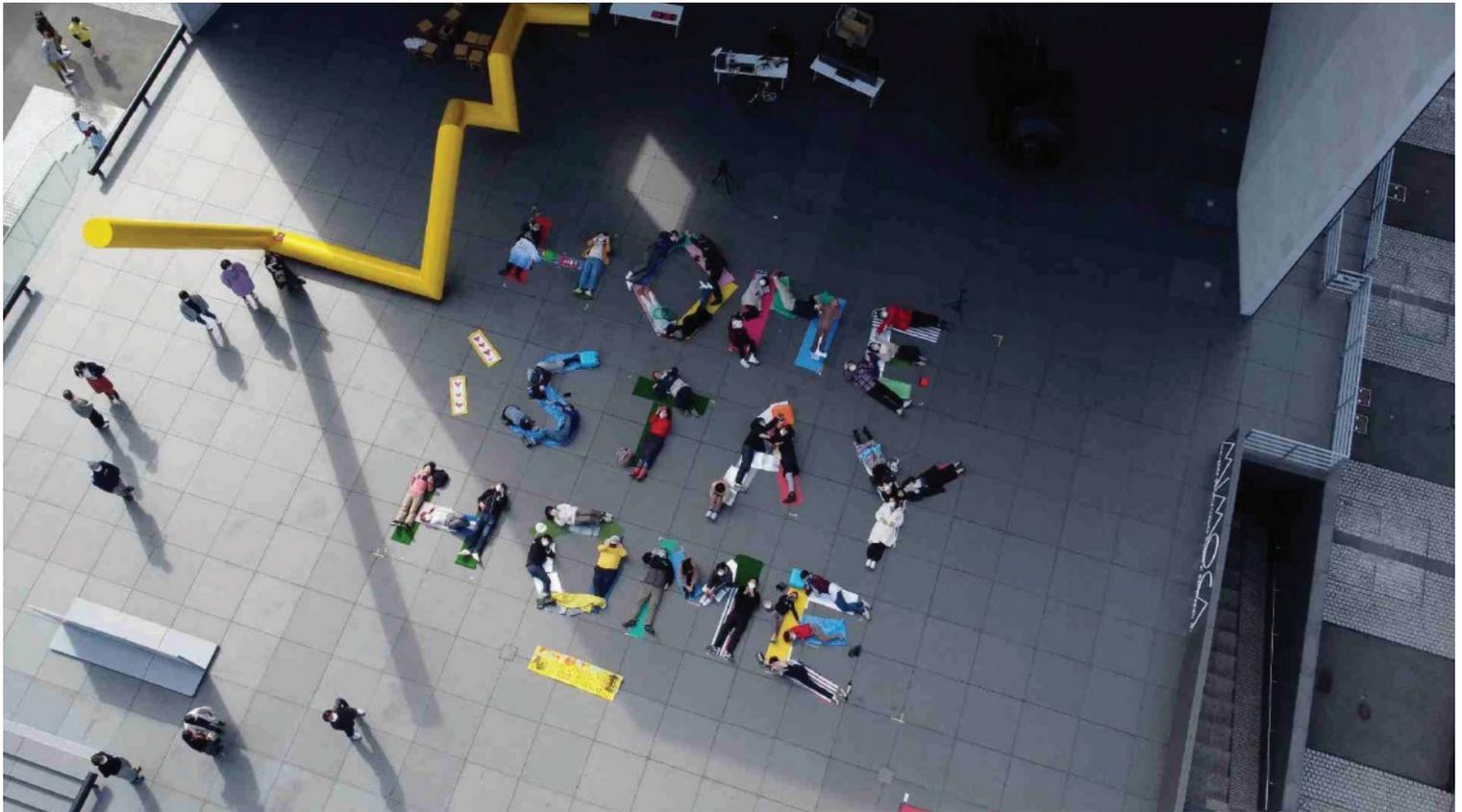
Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子) 《ホームステイホーム》 (2021)  
「丸亀での現在」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2021-2022年 [撮影：青地大輔]



Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子) 《ホームステイホーム》 (2021)  
「丸亀での現在」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2021-2022年 [撮影：青地大輔]



Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子) 《ホームステイホーム》 (2021)  
「丸亀での現在」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2021-2022年【撮影：青地大輔】



芸術学部造形学科

1年次共通教育

# 体幹教育

遠隔実践の例と

露わになった問い

京都精華大学  
芸術学部  
造形学科  
講師  
宮永亮  
事例紹介

1.

体幹教育とは

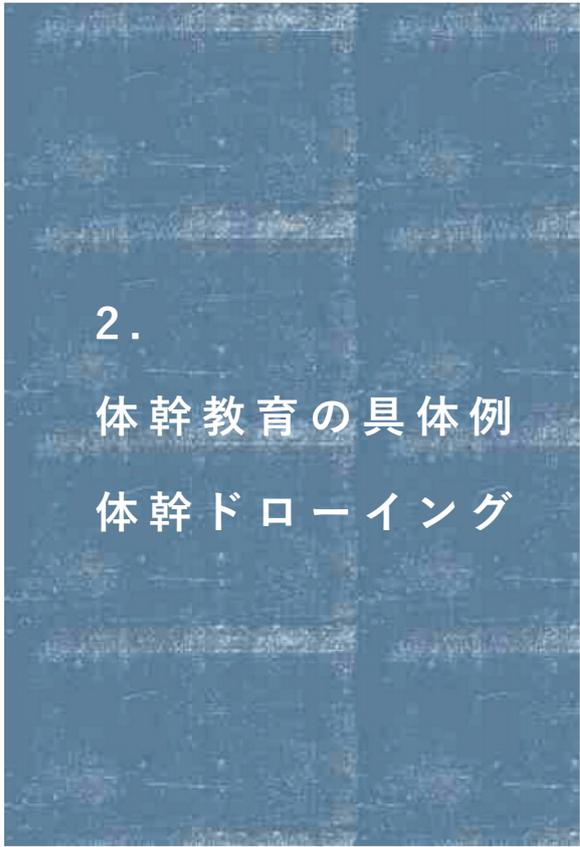
- 2017年の芸術部のカリキュラム大改革
- 受験時より7つのコースに分かれていた学部構成を再編
- 入学して1年間は、専門性に閉じるのではなく、領域を横断的に学ぶ教育機会を重視
- 担当教員の専門分野は日本画、油画、彫刻、版画、陶芸、染織、映像など

# カリキュラム編成



「絵画」「工芸」  
 「彫刻」「デザイン」  
 などの  
 表現分野の大分類を  
 丸一年かけて  
 「問い直す」

		前期																後期																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
京都精華大学	体験教育	月	1年次																1年次															
		火																																
		水																																
		木																																
		金																																
京都市立芸術大学	総合基礎実技	月	1年次																															
		火																																
		水																																
		木																																
		金																																
京都芸術大学	マンデイプロジェクト	月	1年次								2年次								1年次								2年次							
		火																																
		水																																
		木																																
		金																																



## 2.

# 体幹教育の具体例 体幹ドローイング

体幹教育レジュメ	体幹教育レジュメ	作成日	2021/4/13
# 3	# 3	発表日	2021/4/19
			2021/4/20

### 『体幹ドローイング／筆を作る』

【課題内容】  
各自が自作の筆を使って、芸術1年生全員が順番に20m x 20mの紙にドローイングを行う。モチーフを想くという意識ではなく、自分の身体の軌跡が紙に残される面白さを体験する。

- ポイント
- 1 身体の動きと筆の特質が、どのように線に現れるかを想像する。
  - 2 筆の材料の一部（筆の柄など）は体幹準備室にあるものも使えるが、自分で考えた特殊な筆の柄に、自分で考えた材料を持参しても良い。
  - 3 朝夕酸のゴミ捨て場などにも、材料があるかもしれません。
  - 4 人それぞれの軌跡・筆跡が一つの画面に重なり現れる表現の面白さを発見する。

【支給材料】  
クラフト紙、養生用シートなど汚れ防止材料、ネオカラー（赤青白緑）、ハケツなど

【個人の準備物】  
自分で考えた筆の材料、タオル（体を拭く用）、雑巾（掃除用）、汚れても良い服（ツナギなど）、体育館用の上履き（ただし汚れても良いもの）

【課題スケジュール】

4月19日	「光彩溢れる広場」もしくは「L-101」（雨天時）で全体説明。 自作の筆を作る。
4月20日	「体育館」に全員で自作の筆、雑巾、着替え、上履きなどを持って集合、「体幹ドローイング」を行う。 全員で片付け

【注意事項】  
体育館を使わせていただくので、下記の事項に注意してください。  
・ペンキで館内を汚してはいけません。汚れに気が付いたらすぐにふき取ること。  
・足の裏など、気がつかない箇所の汚れに気を付けること。  
・汚水はトイレには流さないこと。  
・故意に人にペンキを掛けないこと。  
・準備・片づけを協力し合ってください。特に片づけは汚れに要注意。  
・体育館には靴を脱いで上がります。  
・コロナ状況に鑑み、各自しっかりディスタンスを取ることを心がけてください。





# 体幹教育の身体性

読んで字のごとく、美術教育における身体性を  
重視してきたカリキュラム



### 3.

## 美術教育における 「身体性」の コロナ禍による 変化

対面での第1課題『工房内を描く』  
から  
遠隔での第1課題『身の回りを描く』  
への切り替え

身体教育レジュメ 授業のクリエーション(授業案書)  
# 1 # 1  
作成日: 2021/4/1  
発表日: 2021/4/6

### 『工房内を描く』

課題内容|  
芸術学部内外の工房や建物を巡り、クロッキー帳に鉛筆・コンテやその他の画材で素早く何枚も描く。  
部分を正確に丁寧に、という意識を捨てて、気になる構材・造形や空間の印象・構図を意識しながら走るように描く。

- ポイント|
- 1 鉛筆は柔らかめ(2B-6B)を使用し、芯は尖らせずに丸みを持たせること。鉛筆・コンテの持ち方に変化をつけて、感触を確認する。
  - 2 立ったままで描く時間が長くなるため、立ち疲れない靴と多少汚れても構わない服装で。
  - 3 クロッキー帳・鉛筆・コンテなどの画材だけでなく、身の回りの絵が描ける画材をいろいろ探して使ってみよう。
  - 4 画芸室場に於いて、自分の作品を盗たつくりする。と意識し、描く場所に応じたマナーを守る習慣を身につける。

文房具材料|  
特になし。

個人の準備物|  
クロッキー帳、各自が描くために必要な画材(鉛筆やコンテをはじめ、各自でどんな工夫しましょう)

課題スケジュール|

4月6日	光彩館	5号館	7号館	陶芸室場
14:50-15:20	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Dクラス
15:50-16:00	Dクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス
16:20-16:50	Cクラス	Dクラス	Aクラス	Bクラス
17:00-17:30	Bクラス	Cクラス	Dクラス	Aクラス

身体教育レジュメ 授業のクリエーション(授業案書)  
# 1 # 1  
作成日: 2020/4/17  
発表日: 2020/4/20  
印刷提出時期: 2020/4/23

### 『身の回りを描く』

課題内容|  
自宅内及び周辺を巡り、各自が考え用意した画材で、素早く何枚も描きましょう。  
部分を正確に丁寧に、という意識を捨てて、気になる場所の印象・構図を意識しながら走るように描いてみてください。  
クロッキー帳と鉛筆というオーソドックスな素材にとらわれる必要はありません。思い思いの画材を試しみてください。  
2日間で計30枚以上描いたら、お気に入りの3枚を写真に撮影し、セカイポータル経由でそれら写真について、150字程度のコメント付きで提出してください。

※なお、写真で提出した3枚以外の作品も、対面授業が再開した際に教員に見せてもらいますので、捨てずに取っておくようにしてください。

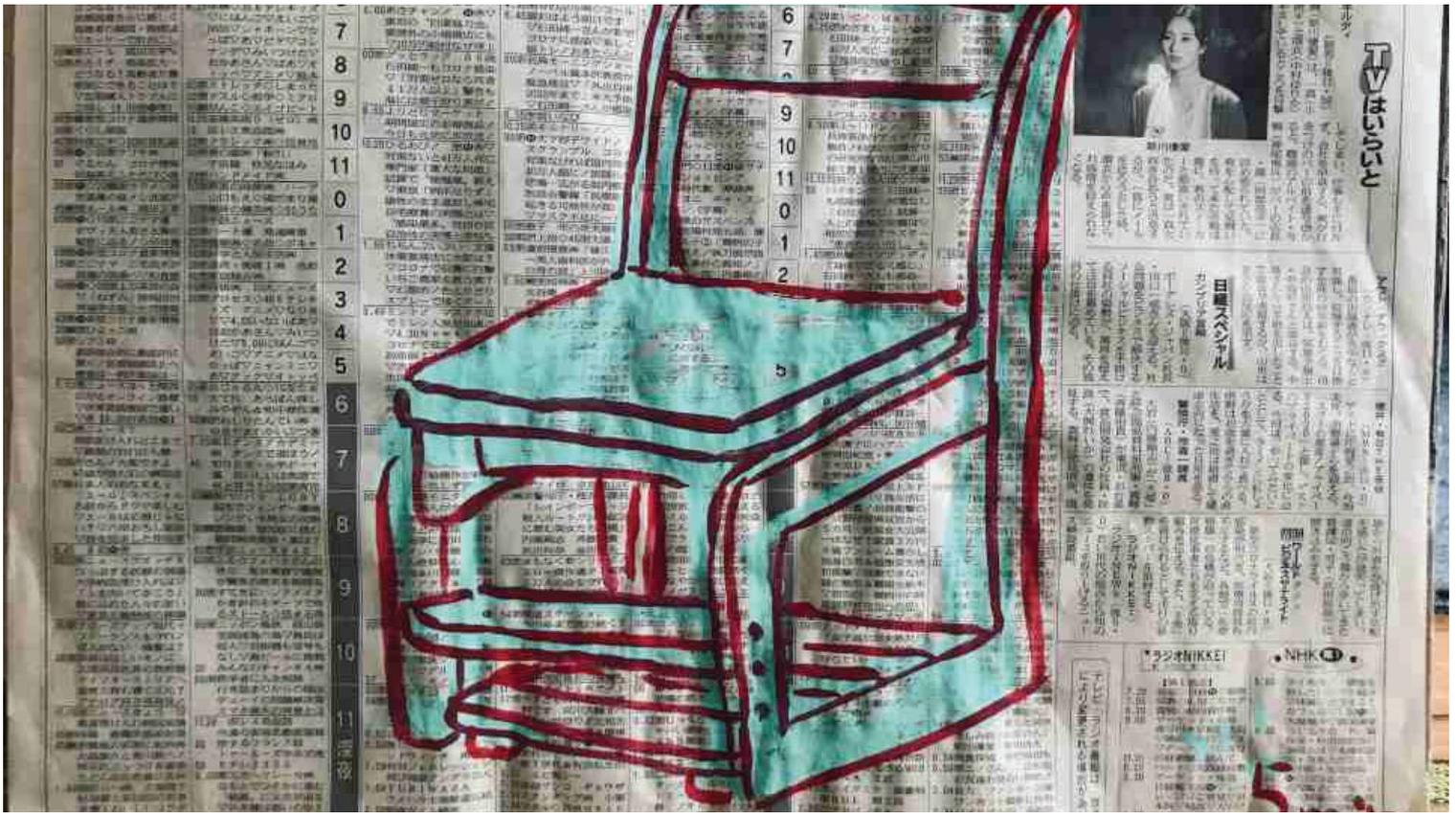
- ポイント|
- 1 いつも通っている自宅やその周辺を柔軟な視点で見つめ直し、新たな発見を描きとめてみましょう。
  - 2 家の外で課題に取り組む場合は、各居住地での新型コロナウイルスの状況に鑑み、出来る場所、出来ない場所をしっかりと判断して行うこと。
  - 3 クロッキー帳・鉛筆・コンテなどの画材だけでなく、身の回りの絵が描ける画材をいろいろ探して使ってみよう。アナログ、デジタルは問いませぬ。
  - 4 2日間の課題の中で、30枚以上描きましょう。

文房具材料|  
特になし。

個人の準備物|  
各自が描くために必要な画材(鉛筆やコンテをはじめ、各自でどんな工夫しましょう)。

課題スケジュール|

4月20日	各自、メール案内、Youtubeでの動画ガイダンスと本レジュメにて課題内容の確認。 制作及びZoom、メール経由での質問受付。(利用方法やアドレス、URLは別途の案内メールを参照)
4月21日	制作及びZoom、メール経由での質問受付。(利用方法やアドレス、URLは別途の案内メールを参照) セカイポータルから課題提出。締め切りは21日17:00まで。





クロッキーをするといったらスケッチブックに6Bぐらいの濃い鉛筆でするものというイメージが私の中で深くあったので今回のこの課題に取り組み、描く道具にとらわれずにまず試してみるということが大切だと気づかされました。

立体物にクロッキーをすることを今まで一度も挑戦したことがなかったので、ガタガタして思ったように描けないこともありましたが、これはこれで新たな学びになったなと思っています。

写真①これは黄色の折り紙に馬の置物を白色のマジックでクロッキーしました。普段この置物を観察して描いてみるということにはしたことがなかったので造りがわかりおもしろかったです。

写真②これは歯磨き粉に紙コップをマジックでクロッキーしました。少しブヨブヨしているので安定せずとても描きにくいと感じましたが紙以外でもクロッキーすることができることを実感したものでした。

写真③これはヨーグルトの蓋に瓶をマジックでクロッキーしました。普段こんなものには絶対クロッキーしないので不思議な感じでした。歯磨き粉と違い安定していたので立体物でしたが描きやすかったです。

# 遠隔教育の身体性とは

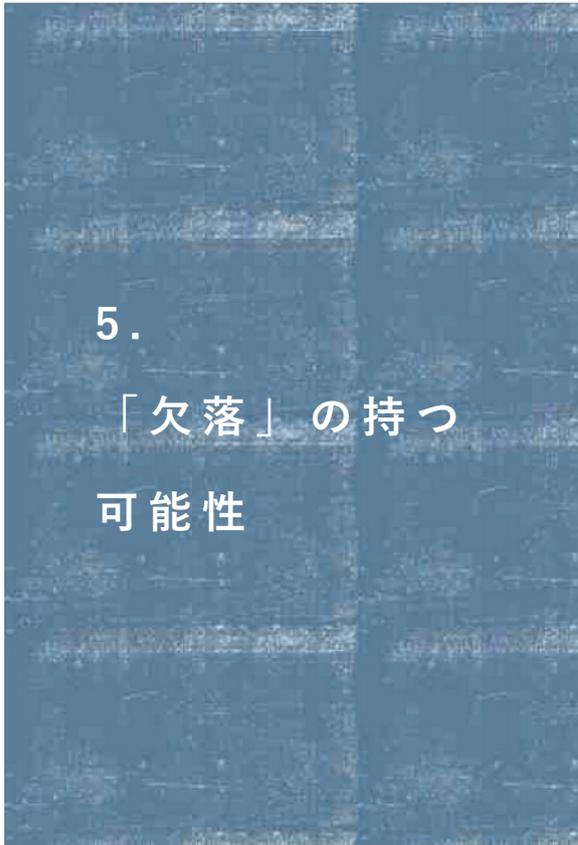
支持体と描画材料の間にある困難さから、描くという行為をフィジカルに問い直してみること？



## 4. 新しい「身体性」 の発見

- 対面の共通教育における、大人数クラスに「均等な教育」を確保するという命題
- 資材の準備、スケジュール管理など、実務的な問題
- これらが「足りなさが表現を作る」という作家感覚を毀損していたかも
- グループワークが不可能な遠隔状態がより深く、より詳細に現代の学生たちの「個」を掘り出すこともあるのではないか





# 5. 「欠落」の持つ可能性

## 『表面からのクリエイション②』

### 課題内容

『表面からのクリエイション①』での体験をふまえて、「表面」の持つイメージの選出力・可能性に着目し、自宅にある「窓」という表面へのアプローチを条件に、自分の感じる空間の性質や印象を一家させたり、「窓」の内こうに新しい世界を創出させるような、豊かなイメージを描き出しましょう。

### ポイント

- 1 作品は、自宅の「窓」を素材もしくはモチーフとして、サイトスペシフィックに（＝その場の特性に寄り）、リアルな空間に発生しながら、描き加減や存在する状態のような図像イメージを考えましょう。  
描き方は自由ですが、自宅の「窓」の表面に寄せ集めたり、「窓」そのものを描いたり、なんらかの図像イメージを描き出して下さい。＊大きさは、自宅の「窓」のサイズに、可能な限り合わせて下さい。直接描かない場合は、透過性の素材に貼くなど、各自工夫して下さい。  
「窓」の内こうの景色や、「窓」がある部屋の構造なども活かしながら、具象・抽象・空間的な平面イメージ、独創的なイメージ、コンセプトualな建築的構想など、それぞれが得意なイメージレーションを選び、自由に構想を練りましょう。
- 2 自宅の外観は、自分の最大の「表面」であり、他者や外の世界との強い境界線・壁・外観・防護壁なども考えられます。絵画基礎でのプロセスを思い出し、それらを更に充実させ、外の世界に向かって「窓」を開けるように、自己の表現を深めましょう。
- 3 15日(月)の絵画基礎最終日に、提出されたデータを精華大学でA3サイズにプリントし、実習室の壁に貼り、全員の作品を展示、教員による講評会を行う予定です。＊写真は、いろいろな光や照明の中で撮っていきましょう。必ず画面全体を真正面から入れて撮るようにして下さい。

### 素材材料

クロッキー帳など、これまで送った画材など

### 絵具の準備物

画材、透過性のある素材 など

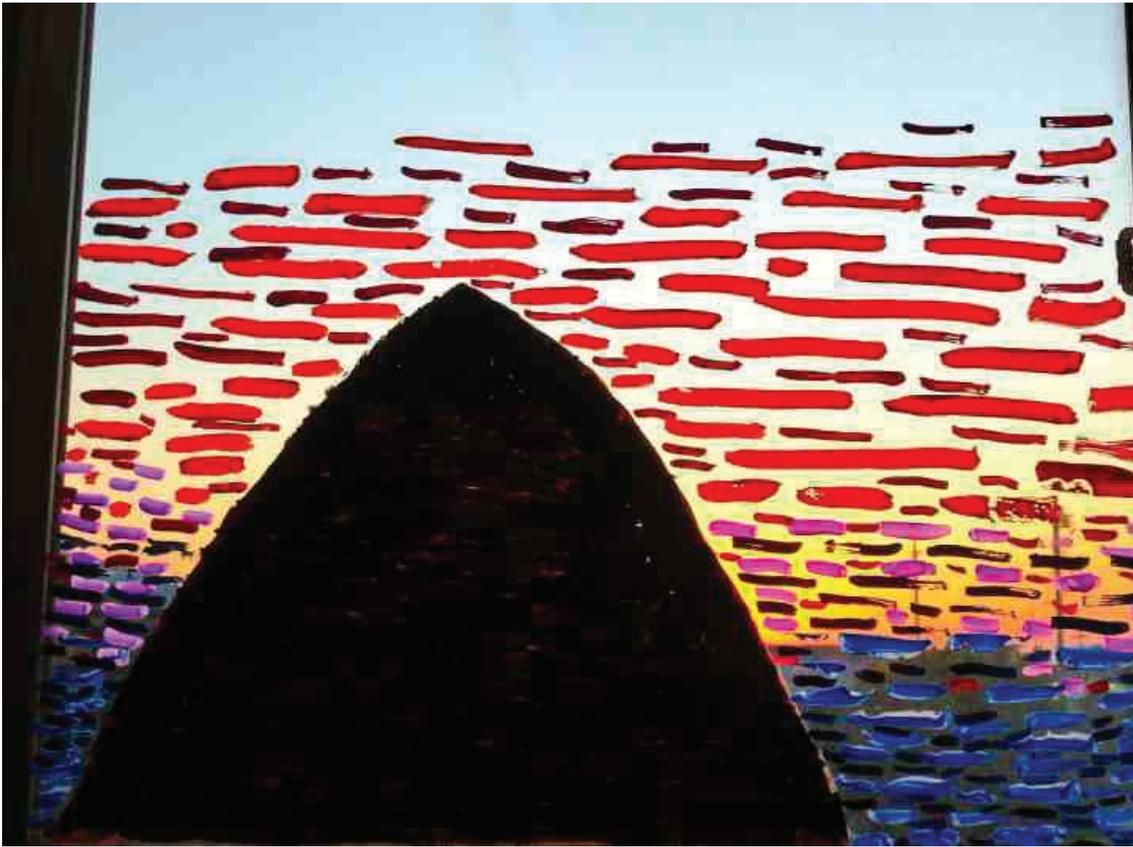
### 注意事項

直接「窓」に絵を描く場合は、それぞれの住宅事情を考慮して、各自で注意して行って下さい。(現状復帰など)

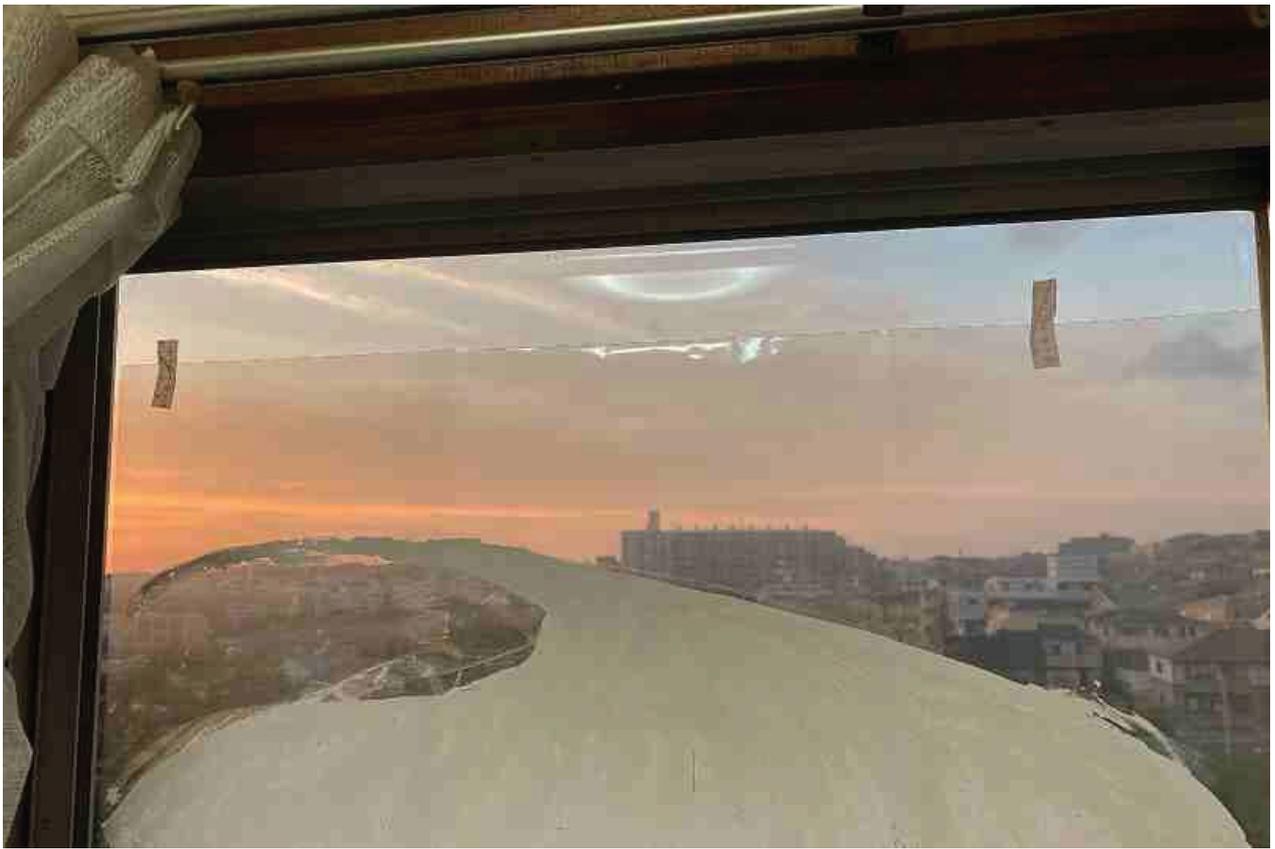
### 課題スケジュール

6月8日	各自、リアルタイム(13:10-13:30)でのZOOMの課題説明に参加(見れない人は各クラスのLINEオープンチャットで案内するYouTubeリンク参照)と、本レジュメにて課題内容の確認 制作及びZoom経由での質問受付
6月9日	制作及びZoom経由での質問受付 16:30~17:00の間にクラスプロファイルで提出、作品の写真データは1枚を選び「添付ファイル」に添付、感想(150字程度)を「コメント」に入力して下さい。 ＊制作は早く終わってしまわず、少なくとも投票時間いっぱい、じっくり取り組むようにしましょう！クラフト紙の原画は大切に保管しておいてください。
6月15日	各自、リアルタイム(15:00-16:30)でのYouTubeライブ配信の講評会に参加(当日に各クラスのLINEオープンチャットで案内するYouTubeリンク参照)











これまでの授業の  
ベースに、  
オナ美術と  
体系的な  
体業みか

タの表  
ナと現  
テしを  
ィて引  
ブ、き  
題

隔がゆ  
授組  
遠のて  
にもれ  
系的な  
体系的な  
体系的な

第27回FDフォーラム  
第3分科会  
＜美術・隔たり・場＞

インターネット以後のポストメディア論

2022年2月20日

東京芸術大学油画専攻非常勤講師 村山悟郎

**課題事例1（芸大芸学一年）**：ボタニカルアート/植物学的な素描  
遠く離れた土地の未知の植物を記述・報告する。

- ・ 等身大のサイズで描く、一枚の画に一種類。
- ・ 背景を描かない。
- ・ 花瓶や植木鉢など、人工物も描き入れない。
- ・ 対象の植物の特徴・性質・構造に忠実に表現する。

例えば、分岐則。子葉、花卉の数など。

何の植物を描いたか、  
クラスメイトが当てられるように！  
画中に植物名は記載しない。  
20点を分ける。



ウィーン写本・ヴィンドボネンシス  
(ラテン語: Codex vindobonensis)

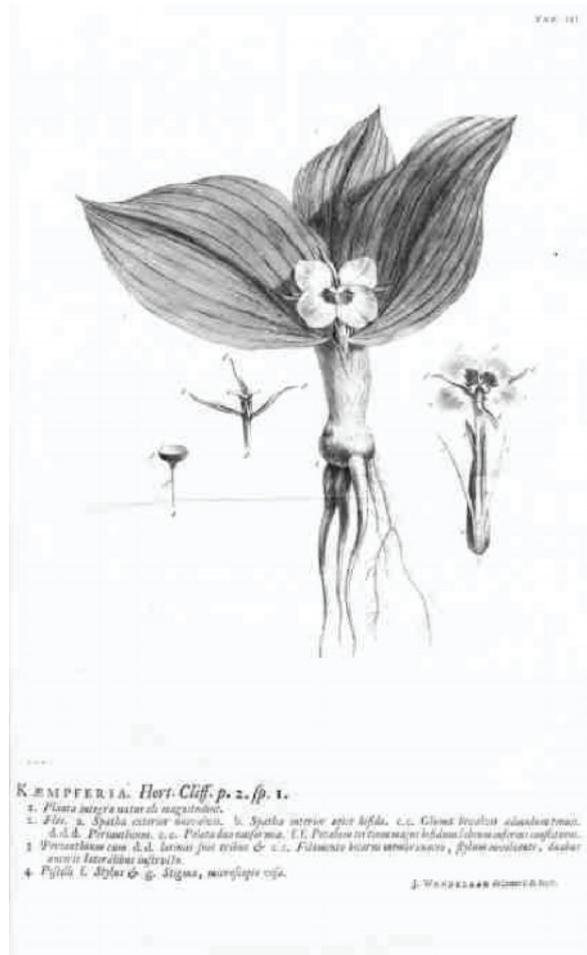
古代ローマの医師ディオスコリデス  
(40年頃 - 90年) による本草書  
『薬物誌』のギリシャ語の写本。  
(512-520年)

主な内容は、「ディオスコリデスの植物図葉集(本草)」: 薬用植物図383枚がアルファベット順に並ぶ。薬草の名前のリスト、医薬的な作用や処方。



Basilius Besler [1561-1629]

『アイヒシュテット庭園植物誌  
(Hortus Eystettensis)』(1613)



Georg Dionysius Ehret [1708-1770]

『クリフォート邸植物 (Hortus. Cliffortianus) 』 (1738)

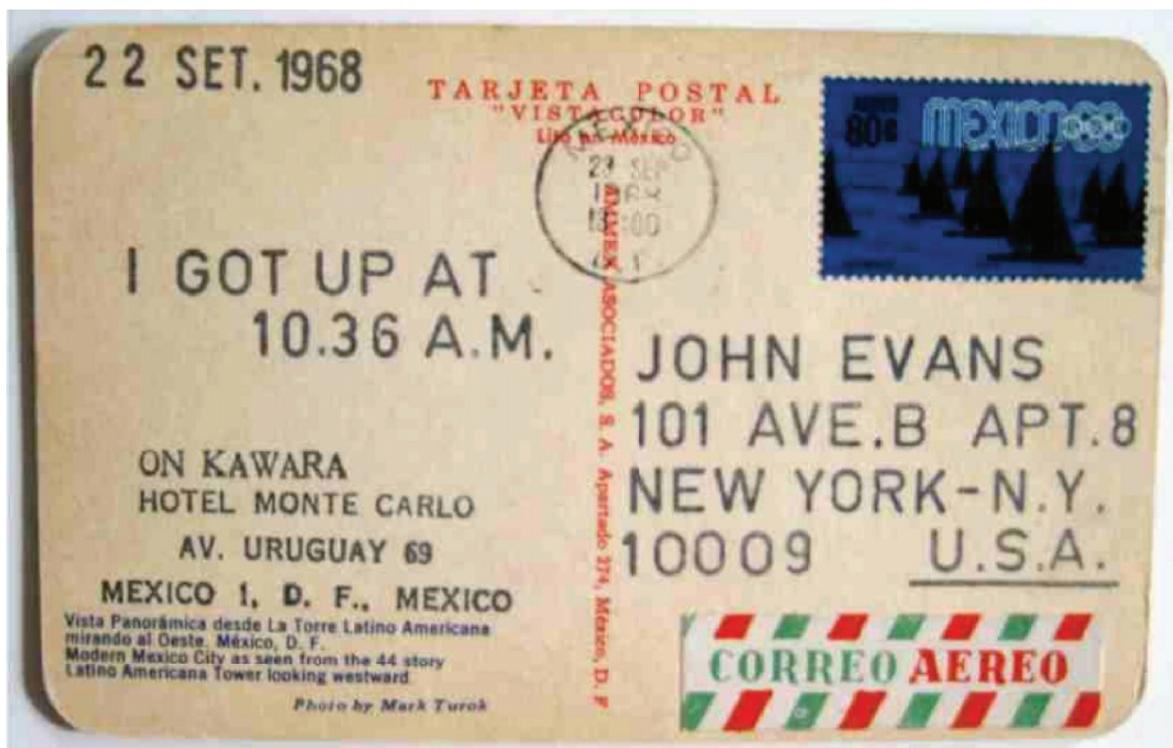


Pierre-Joseph Redouté [1759-1840]





**Plate 8.** Various artists, *Flux Year Box 3*, 1967 (Fluxus Editions, New York). Harvard Art Museums/Fogg Museum, Barbara and Peter Moore Fluxus Collection, Margaret Fisher Fund and gift of Barbara Moore/Bound & Unbound, M26448.1-43. Photo: Imaging Department © President and Fellows of Harvard College.





嶋本昭三のメールアート ([ダダカン]糸井貫二氏宛)

## 課題事例3 (武蔵美油絵四年)

インターネット以後のポストメディア論  
→情報の流れを新しくデザインする  
ex, ツイッター+ネットニュース



2009年10月10日

### 鑑賞プロセス



#### 知恵袋

作者の知恵袋プロフィールにアクセス。  
解決済みの質問のベストアンサーに付いている  
質問者からのコメントを確認。urlにアクセスする。



#### 映像

urlから映像ページへアクセス。  
Homeボタンからはさらに本作品のキャプション  
ページへ飛ぶことができる。

作品はこちらからご覧いただけます



# 現代におけるフォーマリズムの展開

複数のメディア/メディアが現れるなかで、単一のメディア（絵画）に純化することに理論的支えは、もはやない。メディアにおける本質主義に拘泥してはならない。

→ポストメディア（ロザリンド・E・クラウス）

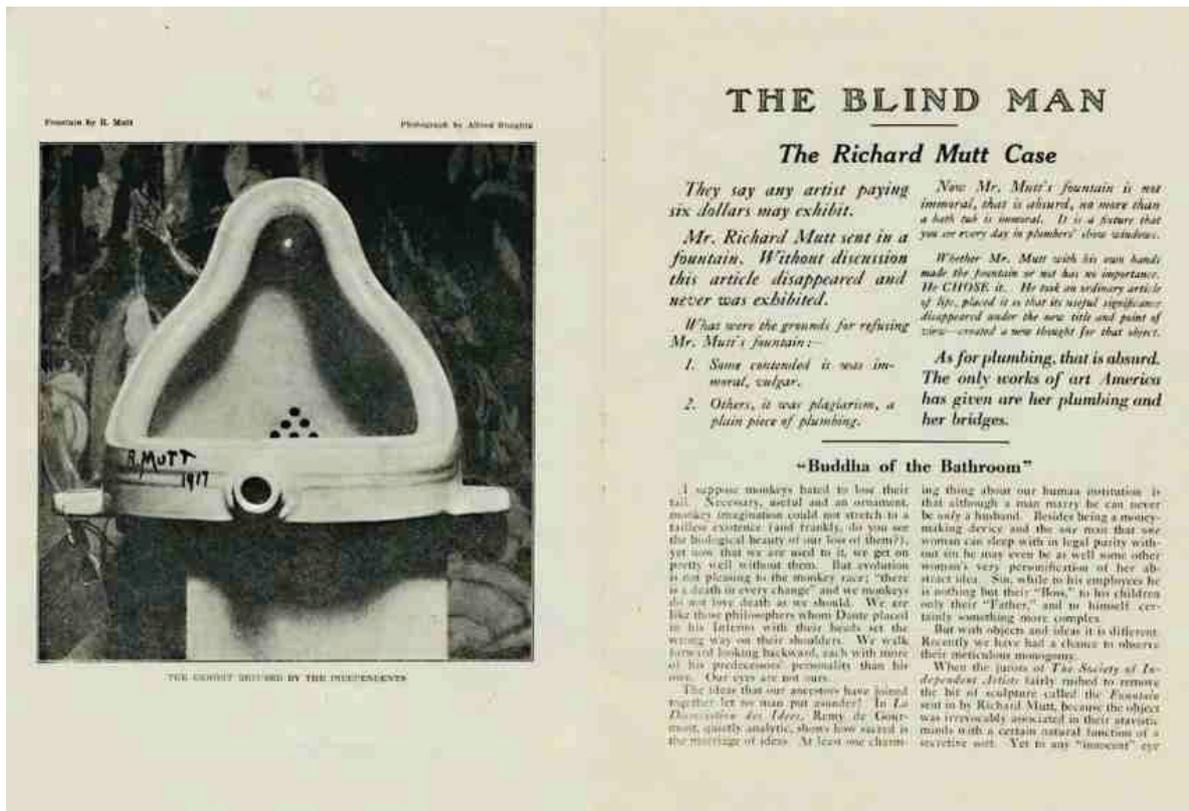
むしろ複数のメディアの間の差異にスペシフィシティを見出すことに、新しいフォーマリズムの萌芽がある。

## inter-medium/間-媒体性 複数化するメディア

### フェリックス・ガタリ「ポスト・メディア」

テクノロジーの変化がこのような領域におけるさまざまな社会的実験と結びつくことを通して（たとえば”コンピュータの補助的利用”がイメージの生産とか数学の問題の解明にいたりつくなど）、私たちはいまのような抑圧的時代から脱出し、メディアの利用の仕方の再獲得と再特異化によって特徴づけられたポスト・メディア時代に入ることがいずれ可能になるでしょう（データ・バンクへのアクセス、ビデオテープコレクション、メディア主体の相互利用活動など）。

フェリックス・ガタリ「ポストメディア社会にむけて」（杉村昌昭＝訳・大村書店1989）



「THE BLIND MAN」



Chim↑Pom 「LEVEL 7 feat. 『明日の神話』」 2011



竹内公太 「指差し作業員」 2011

## コロナ禍の美術教育への問題提起

### アトリエと卒業制作